

4. 熱中症弱者への見守り・声かけ

事例1. 石川県小松市

- **社会福祉協議会**が行う高齢者等見守り活動のひとつとして、6月中旬頃から約3週間で民生委員と**地域福祉推進員**が独居高齢者等の見守り対象者約5,400人(令和5年現在)を訪問し、**地域の名産である水と熱中症啓発チラシを配布**し、エアコンの適切な使用等、熱中症への注意を呼びかけている。



▲訪問時に持参したチラシ、うちわ、地域名産の水

・9月1日の**防災の日**に行う安否確認(訪問か架電)とあわせて、必ず年に2回は対象者と接する機会ができた。
※除雪時期にも対象者のことを気にかけている。

・一齐に行う取組があると広報もしやすく、民生委員等がこうした活動をしていることを知って頂く良い機会になっている。

■ 苦労した点

新型コロナウイルスの流行以降、対面で会いたくない方にはドアのノブにかけるなどしている。民生委員、地域福祉推進員の使用するマスクは社会福祉協議会から提供した。

水の配布対象とならなかった方からは「隣の●●さんはもらえたのにうちはもらえなかった」と言われることもある。

■ 工夫した点

小松市にいる約250名の民生委員だけでは、3週間で5,400人を訪問することは難しい。民生委員とほぼ同数の地域福祉推進員が協力して活動いただけることで実施できている(ひとり当たりの担当者は約12名)。